

## 歴史的風致活用国際観光支援事業について

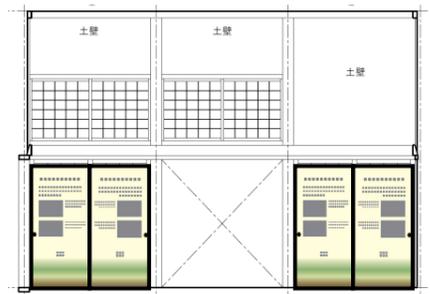
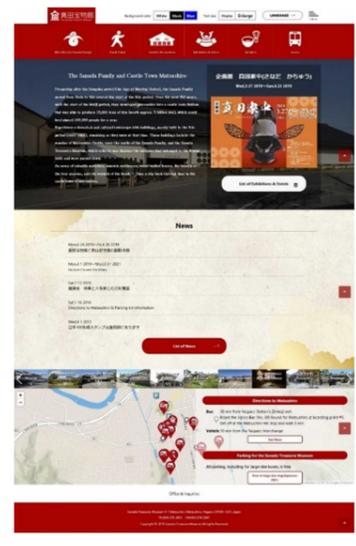
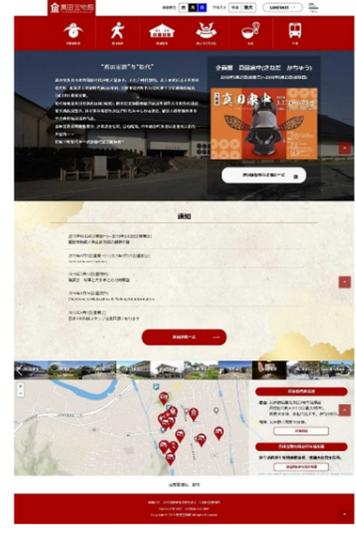
- 1 目的 広域観光周遊ルートの形成に向けた取組の一環として、歴史的風致維持向上計画認定都市において、受入環境整備に係るソフト・ハード両面の取組に対して総合的に支援することにより、歴史的風致を活用した都市の魅力の向上及び賑わいの創出を図り、地域活性化を実現することを目的とする。（平成27年4月10日付国都景歴第11号 制度要綱より）

## 2 整備計画 長野市歴史的風致活用国際観光整備計画

計画策定の背景・目的	長野市には善光寺とその門前町や城下町として発展した松代、山岳信仰集落をなす戸隠など数多くの文化的地域がある。 その地域に受け継がれた歴史的資源を来訪者に体感し、楽しんでもらうことを通じて、長野市ならではの価値を提供し、訪日外国人観光客を含めた何度も訪れてくれるリピーター「ながのファン」を獲得し、長野市固有の歴史や文化を活かしたまちづくりを進め、地域の活性化を図るもの
計画期間	平成30年度～令和元年度
広域観光周遊ルート形成計画との関連性	「昇龍道」は日本の「まんなか」9県の広域共通テーマである「サムライ」、「ものづくり」等をストーリー化して海外へ発信するとして平成27年6月12日に認定された。そのうちのNostalgicコースにおいて、主要ゲートウェイ施設である長野駅をもつ長野市では、地域固有の門前町や城下町、宿場町のような日本の原風景を通じて、訪れる人が「なつかしさ」や「温かさ」を感じられる日本の心のふるさとを体験できる。
歴史的風致維持向上計画との関連性	「善光寺御開帳にみる歴史的風致」における善光寺御開帳では参拝者が回向柱を介して前立本尊とつながることができる。その回向柱は「水路と庭園にみる松代城下町の歴史的風致」にあげられる松代城下町から寄進され、善光寺門前町を経由し善光寺へ奉納される。 回向柱の奉納ルートには歴史的建造物が多く残り、地域固有の風情や情緒を醸し出している。そのような歴史的建造物を観光の拠点とする等、積極的な利活用を促進するための環境整備を行うことで歴史的風致の維持及び向上に寄与する。 また、「鬼無里神社の祭礼と町屋にみる歴史的風致」における鬼無里地区では、彫工北村喜代松による透かし彫りの龍や唐獅子等が装飾された屋台が残り、祭礼では住民の手により巡行されている。そのような屋台の魅力海外へ発信することで歴史的風致の維持及び向上に寄与する。

## 3 事業概要

事業名	藩校体験プログラム開発事業	松代藩文化施設公式サイト多言語化事業	日本文化体験プログラム開発事業	鬼無里ふるさと資料館ホームページ多言語化事業
種別	体験プログラムの開発	多言語化、ガイドライン策定	体験プログラムの開発	多言語化、ガイドライン策定
事業期間	平成30年度～令和元年度	平成30年度	平成30年度～令和元年度	令和元年度
概要	歴まち計画の重点区域「松代・若穂川田地区」にある「史跡旧文武学校」は、安政2年に開校した旧松代藩の藩校で、文学所や槍術所等のほぼ全ての建物が開校当初の位置に現存しており、教育史上価値ある遺跡として、国の史跡に指定されている。 そのような「史跡旧文武学校」において、訪日外国人観光客が気軽に日本文化の体験ができるよう、実際に武道場を使った外国人向けの体験プログラムや多言語に対応する展示解説の整備を実施し、外国人観光客の満足度の向上、滞在時間の長期化を図る。	歴まち計画の重点区域「松代・若穂川田地区」には「旧文武学校」、「旧真田邸」、「松代城跡」をはじめ、多くの文化財施設が集積しており、中でも「真田宝物館」では松代城下町に関連した多くの文化財を収蔵・展示し、地区のゲートウェイ施設となっている。しかし、各施設のホームページや施設内の説明板等は日本語標記での紹介のみとなっており、外国人向けにはなっていない。 近年、外国人旅行者が増加していることもあり、施設の見所等を紹介したホームページを英語、中国語（繁体字・簡体字）、韓国語に対応したものとするとともに、施設間の繋がりを紹介したルートガイド等を充実させ、松代地区内の回遊性の向上を図る。	歴まち計画の重点区域「松代・若穂川田地区」において、近年、外国人観光客数が増加傾向にあり、松代地区にある「旧真田邸」等の文化施設を活用し、実施しているお箏体験や投扇興などの日本文化の体験プログラムの磨き上げや甲冑体験等の新規メニューの開発、実施主体である市民ガイドの育成を行い、文化の継承、外国人観光客の満足度の向上、滞在時間の長期化を図る。	歴まち計画の重点区域「鬼無里地区」にある鬼無里ふるさと資料館には、明治期の彫工北村喜代松の手による透かし彫りの龍や唐獅子、牡丹など優れた技術が施された祭り屋台が4基、神楽が3基展示され、間近に見ることができる。しかし、屋台の見所を紹介している資料館のホームページは日本語表記のみとなっており、外国人向けになっていない。 近年、市内への外国人観光客が増加傾向にあり、資料館のホームページを英語、中国語（繁体字・簡体字）、韓国語に対応したものと、鬼無里地区への誘客及び市内の回遊性の向上を図る。
進捗状況	H30年度 体験プログラムの開発及び展示解説整備に向けた実施設計を実施	ホームページを更新	甲冑などの体験用具及びガイドの育成を一部実施	
	R01年度 展示解説整備を実施		お箏や古武道の体験に係る翻訳、研修動画の編集・仕上げを実施	ホームページを更新

事業名	藩校体験プログラム開発事業	松代藩文化施設公式サイト多言語化事業	日本文化体験プログラム開発事業	鬼無里ふるさと資料館ホームページ多言語化事業
<p>イメージ</p>	<p>・文武学校でのかつての学びの様子を解説する複型グラフィック</p>  <p>・調度品のレプリカを展示し、御目付・御役人の仕様の様子を再現</p>  <p>・お殿様の衣装を身につけ、(衣服の上から羽織ることを想定) 記念撮影</p>  <p>・グラフィックパネルで各道場の解説</p> 	<p>多言語に対応した真田宝物館ホームページ</p>  <p>日本語</p>  <p>英語</p>  <p>中国語 (簡体字)</p>	<p>日本文化体験プログラム開発事業</p>  <p>投扇興体験</p>  <p>お箏体験</p>  <p>抹茶体験</p>  <p>甲冑体験</p>	<p>現在の鬼無里ふるさと資料館ホームページ</p>  <p>■ 屋台の紹介</p> <p>鬼無里神社屋台</p> <p>鬼無里神社の屋台は安政4(1857)年につられたものですが、今なお現役で活躍しています。毎年5月3日の例大祭では、その雄姿を見ることが出来ます。</p>  <p>屋台の正面、破風(やぶ)に龍が巻き付いています。屋根の下の破風に彩色しました。</p>  <p>正面の破風に巻き付いている龍ですが、よく見ると板との「つきあ」とありません(下写真)。裏から見ると一体となっているのが分かります。同じくキヤキの一枚から全てを彫り出しています。北村喜代松の技が分かります。</p>  <p>正面の欄間は龍です。</p>  <p>破風入の「浮彫り」。</p>